



- 本市では、令和3年度に北上市近未来政策研究所（庁内シンクタンク）が実施した北上市への大学等高等教育機関設置のあり方に関する研究を皮切りに、大学設置に関する調査を行ってきた。大学は①若年層の流出 ②人材不足 ③失われるまちの活気——といった課題の解決手段として機能し、まちづくりの次なる一手になると考えたもの。
- 令和5年度は、令和4年度までの調査・研究を踏まえ、大学設置可否を判断するための基礎資料をとりまとめた。

1. 令和5年度北上市大学設置基本調査

(1) 目的及び内容

概要 ■目的：令和4年度までの調査・研究を踏まえ、理工系人材の確保・育成を目的とする新しい大学の設置に向けて必要な事項を調査し、北上市における大学設置可否を判断するための基礎資料をとりまとめる ■内容：高校生向けアンケート調査、国の高等教育政策、設置・運営経費の試算、学生確保の検討、大学立地の効果など ※調査範囲のイメージ



(2) とりまとめ結果

大学は、若年層の流出抑制に有効であると考えられ、人材不足の解消やまちのにぎわいも期待できることがわかった。高校生等向け調査及び企業向け調査等により、北上市は工学系大学を設置できる環境であることがわかった。

▶ポイント① 大学の必要性

■市の課題解決の手段として有効 ■入口側、出口側の両方とも工学系の需要がある ■岩手県の18歳人口に対する県内大学への入学者数の割合（大学収容率）は都道府県別で41位、北東北3県でも最下位 ■国は、理工系分野をはじめとする成長分野をけん引する人材の育成を強化している

▶ポイント② 大学の方向性

■工学を学べる1学部1学科編成 ■市の課題解決に直結する学部系統や教育課程を編成できる点、学生確保の観点から市立大学 ■大学がもたらす効果を最大化するためには大学をまちなかに設置

▶ポイント③ 大学の実現可能性

■入学者は80～120人/学年を見込むことができる ■入学定員を80人以上にした場合、運営面における市の負担額を最小限にでき、採算もとれると考えられる（視察をした大学からも学生を確保できれば採算はとれること、公立は学費の優位性から安定的に志願者、入学者を確保できていることを確認している）

▶ポイント④ 大学の開設が北上市にもたらす効果

■経済波及効果は、開学8年度までの期間で136～193億円が見込まれ、追加税収も同じ期間で1.4～2.0億円と見込まれる ■学生や教職員がまちを歩くことによるにぎわいなど、数字では測れない効果をもたらす

(3) 高校生等向け調査

概要 □目的：高校卒業後の進路希望等について尋ね、大学設置を検討するための基礎資料にするもの □方法：Webフォームから回答するアンケート調査 □期間：令和5年10月13日～11月10日 □対象：① 岩手県内の高校2年生、② ①の保護者、③ 進路指導担当の先生 □有効回答：① 4,029/9,922人(40.6%)、② 999/9,922人(10.1%)、③ 66/89人(74.2%)

① 高校生

項目	最も集まった回答	割合
卒業後の希望進路	大学進学	51.1% [単一回答]
進学したい分野	工学	18.8% [3つまで]
希望する設置主体	国公立	76.0% [単一回答]
進学を希望する地域	岩手県	30.9% [単一回答]
北上市内への進学希望	候補として考える	51.7% [単一回答] ※1

※1 北上市内への進学希望について「希望する、候補として考える」の合計は63.6%

② 保護者

項目	最も集まった回答	割合
とってほしい進路	大学進学	59.1% [単一回答]
進学してほしい分野	工学	18.3% [3つまで]
希望する設置主体	国公立	77.8% [単一回答]
進学を希望する地域	岩手県	46.4% [単一回答]
市内の大学への推奨度	候補の一つとして薦めたい	58.3% [単一回答] ※2

※2 市内の大学への推奨度について「進学先として薦めたい、候補の一つとして薦めたい」の合計は80.8%

③ 進路指導担当の先生

項目	最も集まった回答	割合
希望が多い分野	工学	46.2% [3つまで]
進学が多い設置主体	私立	53.0% [単一回答]
進学地域の傾向	県内志向	57.6% [単一回答]

1. 令和5年度北上市大学設置基本調査（つづき）

(4) 企業向け調査

令和4年度に実施した調査において、次のことが明らかになっている。

① 大学設置に関する経営者層デマンド調査（アンケート調査）

- 大学新卒者の需要が高まる
- 大学設置によって「人材確保の機会の増加」を期待する声が7割超
- インターンシップ受け入れに積極的な姿勢

② 大学等設置に関する事業所等ヒアリング調査

- （地域で必要とされている大学等卒業生の人物像）
- 企業の成長を後押しする、広い知見を持つ人材
 - 生産を支えるデジタル人材
- （地域で求められている主な大学の専門分野）
- 機械工学、電気・電子工学、情報工学

2. 令和5年度にいただいた有識者からの主な意見

令和5年度に外部の有識者と大学設置に関する意見交換を行い、次のような意見をいただいた。これらを踏まえて、今年度の取り組みにつなげていく。

□必要性

- ・高校卒業時点で流出をくい止めることに意義がある
- ・地方にとって大学はよすがになり得る
- ・岩手県南から宮城県北は理工系大学の空白地帯

□方向性

- ・国は理工系学部を増やしている
- ・公立なら志望する高校生は多い
- ・大学は都心部に回帰しており、アクセスが良い方が優位である

□課題

- ・教員の確保
- ・高校生にもわかる良い先生が必要
- ・企業との連携、関係の構築

□提案

- ・学内で完結しないような教育を進める必要がある
- ・グローバルスタンダードという教育を進める必要がある
- ・今後、スローガンやビジョンを明確にすべき

3. 令和6年度の対応について

令和5年度に実施した基本調査結果を踏まえ、現時点においては、大学を設置するにあたっての大きな課題はないという認識のもと、さらに一段階、歩みを進めるという判断をしたことから、今年度、基本構想策定に着手、大学像の具体化に取り組む。

(1) 主な取り組み案

〔事業費：7,476千円〕 ※6月補正予算

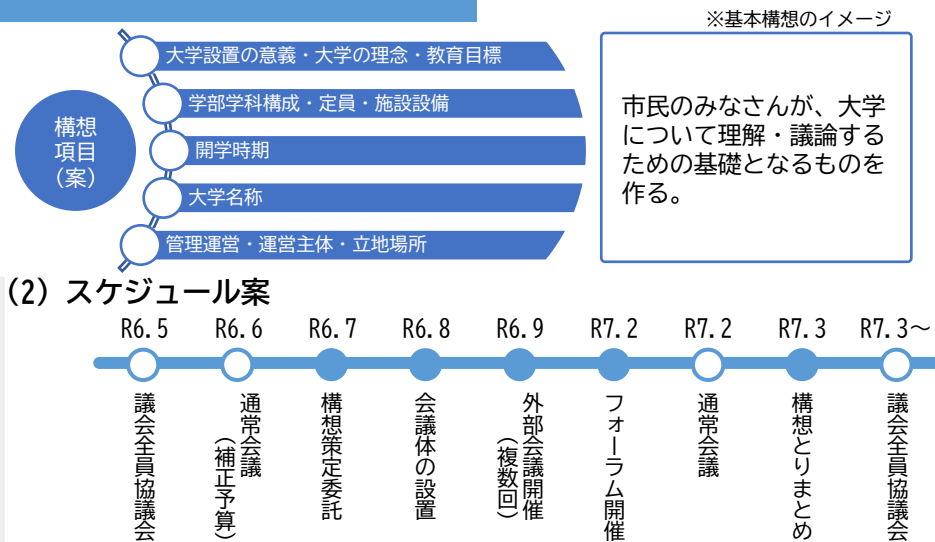
① 大学設置に係る基本構想策定に着手

- ↳ 外部の有識者で構成する会議体を設置し、構想策定に着手
 - ・学部編成は、工学系1学部1学科
 - ・設置形態は、市立大学
 - ・設置場所は、都市拠点エリアの再開発・再整備事業とあわせて検討

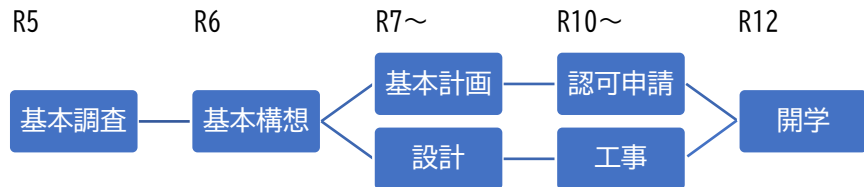
② 大学の整備財源確保に向けた準備を進める

③ 市民の理解や機運醸成を図る

(2) スケジュール案



4. 今後の想定



- ☑ 1ステップごとに課題とその解決策を整理し、次に進むことができるかどうかを確認しながら進めます。